

B 分科会

市町村スポーツ少年団のこれまでとこれから

座長 / 佐藤充宏

パネリスト / 飯田英美・伊藤茂一・野田正彦

B 分科会は「市町村スポーツ少年団のこれまでとこれから」というテーマで、とりわけ市町村合併による本部機能、市町村本部、少年団本部の変化を焦点に話し合いが行われました。それにあたって徳島大学大学院教授の佐藤充宏氏を座長に、2つの市の事例が発表されました。

まず10万人以上の都市の事例として、さいたま市スポーツ少年団の飯田英美氏が発表を行いました。さいたま市で、財団法人の体育協会の中にスポーツ少年団の本部を置く形を取った流れを説明。特徴的なのは各競技団体の少年部に少年団が組み込まれ、事務局に少年団専属の事務員がつくことで、伝達事項が迅速化された。一方で行政から体育協会事務局が独立していない地域が全国には6割以上あるという問題点も指摘。

続いて小都市の事例として、桑名市スポーツ少年団の伊藤茂一氏の発表がありました。桑名市の場合、合併・統合に向けて旧本部を支部に置き換え、5年間旧体制を保留して新本部の規約や財務のあり方などを話し合ってきた経緯が説明されました。ここで、少年団はどこまで行政から自立するべきかという問題提起が出ました。それに対し、自分たちのできることは責任持ってやり、行政に協力してもらえるところはアピールしようという意見が出ました。

全体の総括として、指導者や保護者の方々がともに新たな枠組みの中で少年団のあり方を話し合う機会を持つこと、そして公共性のある活動を地域にアピールして、より行政とのパートナーシップを強化していくことが大切であるという方向性を確認して、B 分科会は終了しました。